



# 全国学力・学習状況調査の結果・分析と今後の取組について

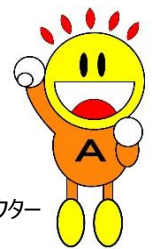


朝日町教育委員会  
令和5年11月

今年4月に小学校6年生・中学校3年生を対象に行われた「全国学力・学習状況調査」の結果概要をお伝えします。今年度も、どの教科においても、きわめて良好な結果となり、「強み」が多くみられました。朝日町教育委員会では、引き続き結果からわかる子どもたちの「強み」を生かし、「弱み」を改善できるよう、具体的な施策に反映していきます。保護者・地域の皆様には、家庭学習や生活習慣の見直しに向けてご協力をお願いいたします。なお、この調査は、学力の特定の一部分を測るものであり、学力のすべてを測るものではないことをご理解ください。

《全国学力・学習状況調査について》

[令和5年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領](#)を参照してください。



イメージキャラクター  
「アーミン」

## 1 教科に関する調査の分析結果

### (1) 本町における特徴的な傾向

#### ① 小学校

2教科とも、全国平均正答率を上回ることができた。また、正当数分布グラフにおいて、中央値が2教科とも全国より1ポイントずつ高くなっている。

国語に関しては、全ての設問が全国の平均正答率を上回っている。評価の観点別にみると、「知識・技能」の項目は 8.3 ポイント、「思考・判断・表現」の項目は 6.8 ポイント、全国平均正答率を上回っている。また、学習指導要領の内容別に見てみると、「話すこと・聞くこと」の項目は 6 ポイント、「書くこと」の項目は 5.9 ポイント、「読むこと」の項目は 8.1 ポイント全国平均正答率を上回る結果となった。分析結果から、本校の弱みは「情報を精査・解釈する力」にあることが分かったので、学校全体で確実に力を積み上げていくために、どの学年のどの単元でどのような取組をしていくのかを検討し、授業改善を図ることで弱みを強みへと変えていけるような指導を行ってきたい。

算数に関しては、1問を除き残りの設問が全国の平均正答率を上回っている。評価の観点別にみると、「知識・技能」の項目は 6.8 ポイント、「思考・判断・表現」の項目は 8.1 ポイント全国平均正答率を上回っている。また、学習指導要領の内容別に見てみると、「A 数と計算」の項目は 7.1 ポイント、「B 図形」の項目は 5.3 ポイント、「C 変化と関係」の項目は 6.2 ポイント、「D データの活用」の項目は 10.5 ポイント全国平均正答率を上回る結果となった。分析結果から、本校の弱みは「図形」「割合」にあることが分かったので、日頃から具体的な場面設定をすることで知識の定着を図り、問題解決のための思考力がつくような手立てをとっていききたい。具体的には、図を活用することで解決の糸口に導くことですぐにあきらめるのではなく根気強く問題に取り組む姿勢を身につけさせていきたい。

#### ② 中学校

全ての教科について、平均正答数・平均正答率が全国・県平均を上回った。基礎基本について十分な定着が図られ、応用問題についても解決する能力が高いと考えられる。また、各教科において無回答も少なく、最後まで粘り強く問題に取り組んでいることが伺える。

国語に関しては、ほとんどの領域で、平均正答数・平均正答率が全国平均・県平均を上回っている。特に、「観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えることができるかどうかをみる」「読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる」等においては、思

考力・判断力・表現力を問う問題での学力の定着が結果として現れ、その中でも特に、読むことの領域については、すべての問題で全国平均を10ポイント以上上回る結果となった。無解答の割合については、15問中すべて(うち無解答なし8問)で全国・県平均を下回っている。記述式の問題においても、4問全てが全国・県平均を上回っている。

数学に関しても、多くの領域で、平均正答数・平均正答率が全国平均・県平均を上回っている。特に、「図形」「関数」「データの活用」においては、10ポイント以上上回っている。無解答の割合は記述式の問題も含め、15問中すべて(うち無解答なし3問)で低く、最後まであきらめず問題に向かおうとしている姿勢が感じ取れる。さらに「複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる」や「ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる」では20ポイント以上上回っており、記述式問題への対応力の定着が伺える。

本年度実施された英語についても、17問中全てで平均正答数・平均正答率が全国平均・県平均を上回っており、その中で実に15問が10ポイント以上上回っている。しかし、「社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる」や「日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる」等の記述式の問題においては、全国・県平均を上回っているものの、正答率が低くなっている。無回答の割合は17問中全て(うち無回答なし12問)で全国・県平均を下回っている。

また、「話すこと」については、5問中全問で全国平均の正答率を上回っているものの、本校の正答率は低い結果であった。

(2)本町における設問別特徴的な傾向(◎…顕著な強み ○…強み ▽…弱み ▼…顕著な弱み)

《各教科の設問について》

[令和5年度全国学力・学習状況調査の調査問題](#)を参照してください。

【小学校】 ( )内の数字は、全て全国との比較です。

本町における設問別特徴的な傾向(◎…顕著な強み ○…強み ▽…弱み ▼…顕著な弱み)	
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 原因と結果など情報と情報との関係について理解している(+15.1)</li> <li>◎ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができる(+12.4)</li> <li>◎ 日常よく使われる敬語を理解している(+11.4)</li> <li>○ 図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる(+5.9)</li> <li>○ 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる ウ(+9.6)</li> <li>○ 送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うことができる(+6.1)</li> <li>○ 文章の種類とその特徴について理解している(+5.5)</li> <li>○ 情報と情報との関係づけの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる(+7.8)</li> <li>○ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる(+9.7)</li> <li>○ 必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が効きたいことの内容を捉えることができる(+8.6/+5.1)</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述できる(+12.7)</li> <li>◎ 台形の意味や性質について理解している(+13.8)</li> <li>◎ 示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できる(+15.1)</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができる(+12.9)</li> <li>○ 正三角形の意味や性質について理解している(+5.3)</li> <li>○ ( )を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ることができる(+8.0)</li> <li>○ 示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断できる(+8.4)</li> <li>○ 加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることができる(+9.0)</li> <li>○ (2位数)÷(1位数)の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考慮することができる(+9.8)</li> <li>○ 百分率で表された割合について理解している(+8.3)</li> <li>▽ 高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる(-1.4)</li> </ul>
---

【中学校】 ( )内の数字は、全て全国との比較です。

本町における設問別特徴的な傾向(◎…顕著な強み ○…強み ▽…弱み ▼…顕著な弱み)	
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えることができるかどうかをみる(+11.7)</li> <li>◎ 文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握することができるかどうかをみる(+14.1)</li> <li>◎ 文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができるかどうかをみる(+13.4)</li> <li>◎ 読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる(+19.2)</li> <li>◎ 具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる(+16.6)</li> <li>◎ 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる(+27.2)</li> <li>○ 目的や場面に応じて質問する内容を検討することができるかどうかをみる(+5.1)</li> <li>○ 話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問することができるかどうかをみる(+9.2)</li> <li>○ 聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることができるかどうかをみる(+9.5)</li> <li>○ 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる(+8.1)</li> <li>○ 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができるかどうかをみる(+5.2)</li> <li>○ 古典の原文と現代語の文章とを対応させて内容を捉えることができるかどうかをみる(+5.5)</li> <li>▽ 意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる(-3.4)</li> <li>▽ 文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる(-3.2)</li> </ul>
数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 自然数の意味を理解しているかどうかをみる(+10.1)</li> <li>◎ 数と整式の乗法の計算ができるかどうかをみる(+10.2)</li> <li>◎ 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる(+13.4)</li> <li>◎ 結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見だし、説明することができるかどうかをみる(+14.7)</li> <li>◎ 四分位範囲の意味を理解しているかどうかをみる(+12.1)</li> <li>◎ 複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる(+41.1)</li> </ul>



	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができるかどうかをみる(+15.3)</li> <li>◎ 事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを、事象に即して解釈することができるかどうかをみる(+14.8)</li> <li>◎ 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる(+14.0)</li> <li>◎ ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる(+26.5)</li> <li>◎ 条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取ることができるかどうかをみる(+14.9)</li> <li>○ 反比例の意味を理解しているかどうかをみる(+7.2)</li> <li>▽ 累積度数の意味を理解しているかどうかをみる(-3.5)</li> </ul>
英語	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 1(3)情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる(+20.0)</li> <li>◎ 日常的な話題について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる(+12.4)</li> <li>◎ 日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる(+11.9)</li> <li>◎ 社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるかどうかをみる(+12.5)</li> <li>◎ 5(1)情報を正確に読み取ることができるかどうかをみる(+17.5)</li> <li>◎ 「事実・情報を伝える」と「考えや意図を伝える」という言語の働きを理解し、事実と考えを区別して読むことができるかどうかをみる(+18.2)</li> <li>◎ 日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる(+19.0)</li> <li>◎ 文と文との関係を正確に読み取ることができるかどうかをみる(+19.2)</li> <li>◎ 日常的な話題について、短い文章の概要を捉えることができるかどうかをみる(+12.2)</li> <li>◎ 社会的な話題について、短い文章の要点を捉えることができるかどうかをみる(+16.7)</li> <li>◎ 社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる(+18.2)</li> <li>◎ 未来表現(be going to)の肯定文を正確に書くことができるかどうかをみる(+21.3)</li> <li>◎ 疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を正確に書くことができるかどうかをみる(+18.0)</li> <li>◎ 「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確に書くことができるかどうかをみる(+22.2)</li> <li>◎ 日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる(+15.4)</li> <li>◎ 日付に関する基本的な表現を理解するとともに、その知識をやり取りの場面において活用できる技能を身につけているかどうかを見る(+11.7)</li> <li>◎ 日常的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を述べあう事ができるかどうかを見る(+21.8)</li> <li>○ 1(1)情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる(+9.9)</li> <li>○ 1(2)情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる(+9.7)</li> </ul>

(3)本町における平均無解答率の状況

<小学校>

平均無解答率	国語	算数
朝日町	3.1	2.2
三重県	3.7	3.1
全国	4.8	3.4

<中学校>

平均無解答率	国語	数学	英語
朝日町	1.7	4.0	2.1
三重県	4.5	8.9	5.3
全国	4.6	9.6	5.7

朝日町における平均無解答率は、小中学校とも全国平均を大きく下回っており、全体的な傾向として児童生徒が最後まで粘り強く調査に取り組んでいたことがよく分かる。特に、中学校数学問題においては、全国比5.6ポイントと大きな開きがあった。この平均無解答率の低さは、これまでの調査においても同様の傾向があり、朝日町の大きな強みの1つともなっている。

(4)学力の強み・弱みについての分析と今後の取組

<小学校・国語>

強み	原因と結果など情報と情報との関係について理解している
分析	正答率は、全国平均を10ポイント以上上回っている。本校のほとんどの児童が「雑草の量が増えてきた」と「雑草の量に対して雑草取りが追いついていない」ことの関係性を捉えることができている。
取組	今後も、書かれている文章が「結果」なのか「原因」なのかなど、語尾に注目させることを意識させたい。
強み	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができる
分析	正答率は、全国平均を10ポイント以上上回っている。複数の資料を見比べながら読み取る力が概ね身についてきていることが分かる。しかし、最後までしっかり資料を読み取れていなかったり、選択肢を見比べることで分かる情報があることに気付いていなかったりする児童もいる。
取組	「情報を精査・解釈する力」に課題があることが分かったので、復習の資料から精選する活動を行っていく必要がある。
強み	図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる
分析	全国平均を5ポイント以上上回っているものの、正答率は3割程度にとどまっている。複数の資料からではなく一方の資料からしか分かることを書くことができなかつたり、それまでの文章の流れとして相応しい文末表記ができていなかったりする。
取組	上記同様、「情報を精査・解釈する力」と文末表記に課題があることが分かるので、日常的に「用語を使って書く」「与えられた表現に続けて書く」などの条件に沿って書く活動を取り入れていきたい。

<小学校・算数>

強み	示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できる
分析	正答率は、全国平均を10ポイント以上上回っている。2つのグラフを比較することができる。また、参考となる記述の型があると言葉と数を用いて説明することができる。
取組	これまでの弱みであった記述対策として様々な形式の問題に取り組んできたことが成果として表

	れている。「記述は難しい」という概念を払拭するために、実は問題にヒントが隠されていることや必要な式や算数用語を使えば良いことなど、書き方のコツを指導してきたので、今後も継続していきたい。
強み	台形の意味や性質について理解している
分析	正答率は、全国平均を10ポイント以上上回っている。図形を構成する要素とその関係に着目することができ、台形は向かい合った一組の辺が平行であることを理解できていることが分かる。
取組	図形の定義についてまだまだ理解が十分ではないが、2(1)のように選択肢が示されていると正答にたどり着くことができている。しかし、選択肢が無い場合は記述が難しいことも分かってきたので、定義が確実に定着するよう指導していく必要がある。
弱み	高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大きさを判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる
分析	正答率は2割程度であり、全国平均を1.4ポイント下回っている。三角形の面積を求める公式を正しく理解できていなかったり、底辺の長さが高さが等しければ三角形の面積も等しくなることを理解できていなかったりする児童がいる。テープの図を平行線に置き換えて考えることができていない児童もいる。
取組	公式を覚えてることで満足し、それを活用したり視点を変えたりすることに課題があることが分かった。「知識・技能」はある程度身につけているため、「思考・判断・表現」の力へと活用できるような場面を指導者が意識して指導することで弱みを克服させたい。

<中学校・国語>

強み	文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができるかどうかをみる 読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる など
分析	生徒質問紙の(52)「国語の授業で自分の考えをわかりやすく伝えるために、聞き手の立場に立って効果的な話し方を工夫していますか」(全国+13.9)からも見て取れるように、文章構成を考え、効果的に自分の考えが伝わるように話す力が身についている。1年生から問いに対する答え方や、自分の考えを相手に伝える取組を、授業内でも積極的に行ってきたことが結果につながったと考える。
取組	今後も継続して様々な場面で、主体的で対話的な取組を大切にしていこう。また、個々の能力に応じた丁寧な指導を行うと共に、お互いが意見を出し合い、生徒間で話す力を高め合う取組を行っていききたい。
強み弱み	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる 話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問することができるかどうかをみる など
分析	本文に書かれている内容について、自分の考えを明確にし、相手に伝わるように工夫をして表現する活動(朝日タイム)を行ってきたことが結果につながったと考える。
取組	今後も継続して、「なぜ?」「どうして?」と生徒の疑問に対して、考えを深められる指導や授業改善に取り組んでいきたい。
弱み	意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる 文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる など

分析	毎週継続して実施している漢字テストが書く力の定着につながってはいるものの、タブレットの活用が増えたことで、実際に文字を書く機会が減ったことも要因として考えられる。
取組	今後も漢字テストを用いて漢字の学習を行っていくと共に、何度も繰り返して学習し、定着を図っていきいたい。また、学習した漢字を日常生活のどの場面で使うことができるのかを考えたり、自分で短文を作ったりと、漢字に親しめるような取組を行っていきいたい。

<中学校・数学>

強み	自然数の意味を理解しているかどうかをみる 数と整式の乗法の計算ができるかどうかをみる 反比例の意味を理解しているかどうかをみる など
分析	基本的な知識や表現力が身につけている。2年生からの少人数を対象とした授業の成果であると考えられる。生徒質問紙の回答結果を見ても、「数学の授業の内容はよくわかる(全国+18.2)」という結果であり、多くの生徒が数学に対して興味関心を持ち、意欲的に授業に取り組んでいることも、今回の結果につながったと考えられる。
取組	今後も個別最適な学びを提供していけるよう、引き続き、誰一人取り残さない授業を継続することで、基礎基本の定着を図っていく。
強み	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる など
分析	各教科とも、授業の中で習ったことを活用し、積極的に課題に挑む「朝日タイム」という時間を位置付けている。「朝日タイム」が生徒の主体的な学習活動を促進し、活動の中で新たな気づき、そして新たな課題や問いを見出すことで学びが深まっている。
取組	今後も引き続いて、「朝日タイム」を効果的に活用して、生徒同士が協働し課題解決していく力を育てるよう、授業改善を推進する。
弱み	累積度数の意味を理解しているかどうかをみる
分析	この項目以外では軒並み全国の平均値を上回っているだけに、唯一目に留まった。内容としては「データの活用」の領域で問題形式は「短答式」である。他の項目と比較しても「データの活用」の領域を苦手としている要素はないため、文章から本質を読み解く力に課題があったと分析している。
取組	今後の授業において、同じような反例を示す課題に取り組みながら、落ち着いて内容を読み取り、正答に繋げていけるよう改善していきいたい。

<中学校・英語>

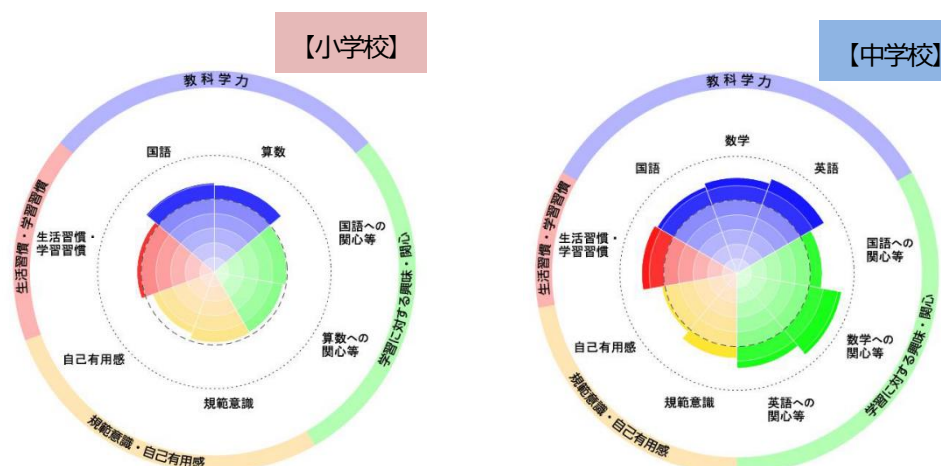
強み	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる 日常的な話題について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる など
分析	「聞くこと」の領域で 2 問とも問題形式は選択式である。生徒質問用紙(59)「英語の勉強は好きですか」(全国+16.1)、(61)「英語の授業の内容はよくわかりますか」(全国+13.2)からもみてとれるように、日頃から英語の学習に対して多くの生徒が興味関心を持ち、意欲的に授業に取り組んでいることも、今回の結果につながったと考えられる。また日頃の活動の中で、まずは相手の意見をよく



	聞きとったうえで、自らの考えを示し課題解決に繋げていくスタイルを大切にしていることも大きな要因であると考えられる。
取組	英語科においても、授業の中で習ったことを活用し、積極的に課題に挑む「朝日タイム」という時間を位置付けている。「朝日タイム」が生徒の主体的な学習活動を促進し、「聞くこと」を大切にしながら、自分の中の新たな気づきを周りに伝え、新たな課題や問いを見出すことで学びが深まっている。こうした取組を今後も大切に継続していきたい。
強み	「事実・情報を伝える」と「考えや意図を伝える」という言語の働きを理解し、事実と考えを区別して読むことができるかどうかをみる 文と文との関係を正確に読み取ることができるかどうかをみる など
分析	「読むこと」の領域で 2 問とも問題形式は選択式である。生徒質問用紙(67)「1、2 年生のときに受けた授業では英語を読んで全体の概要や要点を捉える活動が行われていたと思いますか」(全国+2.1)からも見て取れるように、日々の授業の中で内容をしっかり読み取り事実を正確にとらえる時間を確保していることが、今回の結果にも結び付いていると考えられる。
取組	様々な情報から正確なもの捉えるには、聞き取る力や読み込む力が不可欠である。今後もそのことを大切にしながら、英語科だけでなくすべての活動において教科横断的に学校全体として取り組んでいきたい。
弱み	日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかを見る 疑問詞を用いた一般動詞の 2 人称単数過去形の疑問文を正確の書くことができるかどうかを見る など
分析	「書くこと」の領域で 2 問とも問題形式は記述式である。平均正答率は全国平均を大きく上回っているものの、生徒質問用紙(72)「1、2 年生のときに受けた授業では聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動が行われていたと思いますか」(全国+0.4)からも見て取れるように、正答率に対して生徒の書くことについての意識に低い結果が見られた。タブレット導入等により、書く機会が以前に比べ大幅に少なくなったことも、要因の一つと考えられる。
取組	すべての教科において、この「書く力」こそが朝日中学校の強みとも言える。自分の考えをまとめ、文にして書く力を今後もさらに伸ばしていけるよう、これまで同様、日々の活動の中で確実に時間の確保をしながら継続して取り組んでいきたい。

## 2 質問紙調査(児童生徒・学校)に関する調査の分析結果

### (1)児童生徒質問紙調査に関する結果に関する概況



児童生徒質問紙調査の結果を全国を基準として標準化して図示したものより



(2)児童生徒質問紙調査に関する結果

①小学校(以下の項目に対する肯定的な回答の割合から強み・弱みに分類を行った)

○強み
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 「朝食を毎日食べていますか。」(+6.4)</li><li>・ 「毎日同じ時間に寝ていますか。」(+3.7)</li><li>・ 「毎日同じ時間に起きていますか。」(+2.7)</li><li>・ 「新聞を読んでいますか。」(+4.2)</li><li>・ 「国語の文章を書く問題で、最後まで解答を書こうと努力しましたか。」(+9.4)</li><li>・ 「算数のわけや求め方を書く問題で、最後まで解答を書こうと努力しましたか。」(+8.2)</li></ul>
▽弱み
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 「自分には良いところがあると思いますか。」(-4.4)</li><li>・ 「学校に行くのが楽しいと思いますか。」(-7.8)</li><li>・ 「将来の夢や目標を持っていますか。」(-6.6)</li><li>・ 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」(-7.2)</li><li>・ 「人が困っているときは、進んで助けていますか。」(-6.7)</li><li>・ 「各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。」(-13.8)</li><li>・ 「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」(-10.5)</li><li>・ 「読書は好きですか。」(-12.7)</li><li>・ 「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。」(-10.3)</li><li>・ 「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。」(-9.9)</li></ul>

②中学校(以下の項目に対する肯定的な回答の割合から強み・弱みに分類を行った)

○強み
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 朝食を毎日食べていますか(+6.2)</li><li>・ 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか(+13.5)</li><li>・ 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか(+6.1)</li><li>・ 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)(+15.6)</li><li>・ 今住んでいる地域の行事に参加していますか(+12.3)</li><li>・ 2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか(+23.9)</li><li>・ 2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか(+11.0)</li><li>・ 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか(+13.8)</li><li>・ あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか(+10.3)</li></ul>
▽弱み
<ul style="list-style-type: none"><li>・ いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか(-2.0)</li><li>・ 昼休みや放課後、学校が休みの日に、本(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館(それぞれ電子図書館を含む)にどれくらい行きますか(-0.5)</li><li>・ 1、2年生のときに受けた授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思いますか(-11.4)</li></ul>

### (3)学習状況や生活習慣の強み・弱みについての分析と今後の取組

#### ①小学校

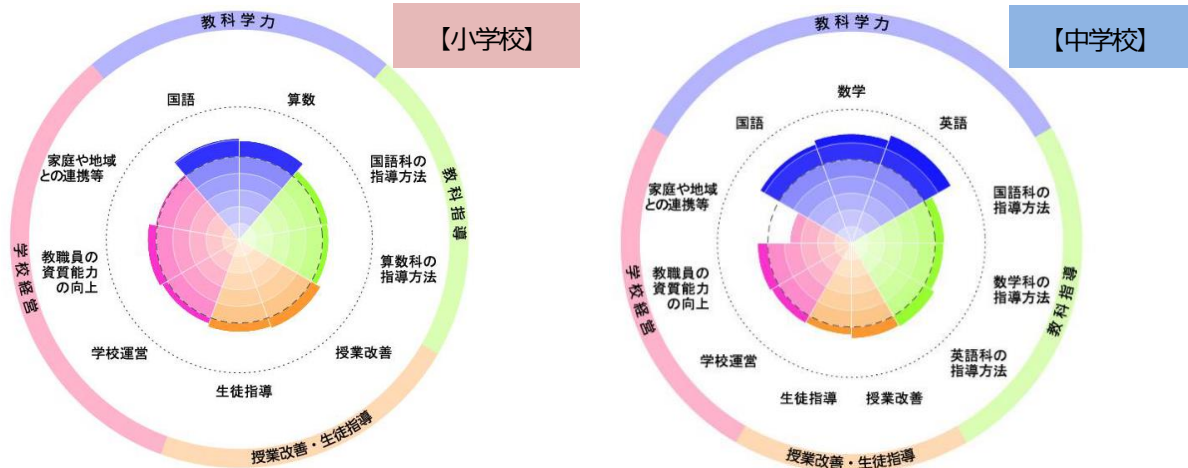
強み	国語の文章を書く問題で最後まで解答を書こうと努力する(+4.5) 算数の言葉や数、式を使って、わけや求め方を書く問題で、最後まで解答を書こうと努力する(+1.5)
分析	最後まで粘り強く取り組むことができている。
取組	朝学の時間等で、文章問題に取り組み、問題に慣れさせる。
弱み	学校に行くのは楽しいとおもいますか(-5.9) 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか(-2.1)
分析	学校に行くのが楽しいという質問は、「どちらかといえば、当てはまる」も加えると数値が上がる。 4月の調査のため、教師との関係性がまだできていない。
取組	新しい環境での、仲間づくりを進めていく。アンケート等で相談できるようにする。
弱み	将来の夢や目標を持っていますか(-2.1)
分析	将来について考える機会がなかった。
取組	総合的な学習で、キャリア教育に取り組む。職業について調べ、まとめる活動を行う。
弱み	読書は好きですか(-16.9)
分析	動画配信やゲームに慣れ、活字を読むという機会が減っている。
取組	読書週間(図書館まつり)の設定や家族読書カードの活用を行う。
弱み	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか(-10.1)
分析	受け身がちな姿勢があり、自ら考えて行動することができていない。
取組	行事や授業において、友達と協力して考え、行動することができた達成感をもたせる。

#### ②中学校

強み	朝食を毎日食べていますか(+6.2) 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか(+13.5) 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)(+15.6) 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか(+13.8)など
分析	各家庭において、子どもの生活習慣・学習習慣の確立に向けた意識が高く、「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣が高い学力とも密接に関係しており、各家庭での支えがしっかりとされていることが伺える。
取組	生活習慣の確立に向けては、今後も家庭との連携を密にするとともに、さらに生徒の意欲を高めるため、計画的に行う学習が成果につながるよう、適切なアドバイスを行うとともに、学校通信やHPによる情報発信や啓発も継続して行っていきたい。

強み	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか(+6.1) あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか(+10.3)など
分析	日頃から「未来に生きる人間力」を教育目標に掲げ、子どもたちがこれからの時代を生き抜いていけるよう、主体的な活動に重きを置きながら、他者の意見を聞き、自分の考えを伝えながら協働し問題解決していく力をつけていけるよう取り組んでいることが、成果となってあらわれている。
取組	日々の学校活動全般で取り入れている、自分の考えを明確にし、相手に伝わるように工夫をして表現する活動(朝日タイム)を活動の軸としながら、相手の想いや考えを受け止め、自分の中の新たな気づきを周りに伝え、新たな課題や問いを見出す活動を今後も大切にし継続していきたい。
強み	1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか(+23.9)
分析	本校は全国的にタブレットの導入が早かったこともあり、各教科における効果的な活用も積極的に行っている成果の表れだと捉えている。授業におけるタブレットの活用と直接的な学力の向上への結びつきについては、今後も検証していく必要があるが、これからの時代を生きていく生徒にとって、欠かせないツールであることには間違いないため、今後ますます、意識的に授業の中に取り入れていく必要がある。
取組	昨年度 9 月以降、各家庭における環境整備等により、本校でもタブレットの持ち帰りが可能となった。また本年度 9 月より全生徒及び教師用が新型タブレットに一新され、ロイロノートやドリルパークの導入により、新たに活用の幅が広がることとなった。今後も ICT 教育担当者会を重ねながら、より効果的なタブレットの活用方法を見出していくとともに、生徒が「授業の中でもタブレットを頻繁に使用する」と実感できるよう取り組んでいきたい。
弱み	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか(-2.0)
分析	年間 2 回ある県のいじめ防止月間における取組や、いじめアンケートや教育相談においての聴き取りといった期間限定ではなく、日常の学校生活を通じて生徒のいじめに対する理解を深め適切な対応がとれるよう促す活動を取り入れていく必要性がある。
取組	全国比-0.2 とわずかではあるが下回っていることを大きな課題として受け止めている。「いじめ防止対策推進法」にある「いじめの定義」をもう一度確認し限定解釈してしまわぬよう、細心の注意を払って取り組んでいくとともに、「いじめの重大事案」に至ってしまわぬよう、「未然防止」「早期発見」「早期対応」を心がけながらの対応をしていきたい。また、道徳科のみならず、教育活動全般において人権教育を根幹に据えながら、子どもたちの心の発達に力を注いでいきたい。
弱み	1、2年生のときに受けた授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思いますか(-11.4)
分析	日々の英語科の授業では、単発的な問いかけに対しての答え等のやり取りは日常化しているものの、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する機会はなかなか設定できていない。
取組	英語科の授業内で、スピーチやプレゼンテーションの機会を増やしていくほか、3 年時には「英語スピーチコンテスト」に自発的に参加する生徒もいるため、積極的な声掛けしてくとともに、そういった場に多くの生徒が自信をもって参加していけるよう、1 年生入学時から英語によるプレゼンテーションの力をつけさせていく必要がある。

#### (4)学校質問紙調査に関する結果に関する概況



学校質問紙調査の結果を全国を基準として標準化して図示したものより

#### (5)学校質問紙調査に関する結果

##### ①小学校

質問番号26「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている」35「各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができる機会を設ける」について、児童らが主体的に考え学ぶ授業づくりを行うよう研修を重ねており、授業において「めあて」を明確にし見通しをもって取り組むことや、試行錯誤し工夫して取り組むことを大切にしている。このことが、児童らの強みである「粘り強さ」につながったと考える。

質問番号58、60「一人一台タブレットの活用」について。授業で、タブレットを用いて児童らが考えを交流したり深めたりする機会を多く取り入れており、日常的に活用する力もついてきていると思われるが、タブレットを用いた学習が役に立っていると児童らがさらに実感できるような指導の工夫が必要である。また、理解度・進度に合わせて課題に取り組ませる等の個に応じた指導に生かすことで、達成感を味わわせたり自信をもたせたりしていく。

##### ②中学校

本年度は、研修主題を『人間力を涵養する授業づくり～主体的・対話的に学べる手立てと工夫～』とし、生徒たちが失敗を恐れず、協働し課題解決に向かえる授業を展開しながら「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の実現に向けた授業づくりに力を入れている。結果、対象生徒が「1、2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか(+10.7)」という項目や「国語の授業の内容はよくわかりますか(+8.3)」「数学の授業の内容はよくわかりますか(+18.2)」、「英語の授業の内容はよくわかりますか(+13.2)」等、各教科の学習面においては特に、全国平均より高い数値として表れている。

#### (6)学校での取組の成果や課題について

##### ①小学校

これまでみえスタディ・チェックを通して明確になってきた弱みを中心に、記述問題や習熟問題に繰り返し取り組ませてきたことが成果として表れている。各教科担任だけではなく、学年全体さらには学校全体が足並みを揃え、全職員が意識することで確かな学力が積み上げられていくと考えられる。そのために、今後も校内研修で全国学力・学習状況調査の問題を全職員で解いたり、分析結果から子どもたちに必要な学力は何かを共有したりしていくことで、弱みを克服する指導に続けていく。

##### ②中学校

「ねらいの提示」と「振り返り活動」を全教科で統一して実施し、教師、生徒の意識を共に高め、1時間の授業の中で何を行っているのかを明確にした。全体公開授業(年間3回)、個人公開授業(年



間1人1回)を行い、授業の大切さを教師自身が振り返り実感できる研修に力を注いでいる。また、「目標(めあて、ねらい)や授業の展開が適切であったか」「その授業でつけるべき力がついたか」について事後に検討を行い、授業改善を行っている。特に「振り返り活動」においては授業改善モデルを活用し「キーワードの文章化」「振り返りシートの作成」などの取り組みを進めている。これらの取組を進めるとともに、各教科では大型提示装置(電子黒板、プロジェクター等)や個人用タブレット等のICT機器を効果的に活用する授業を計画的に行い、生徒の学習意欲・学力向上に努めている。また、主体的・対話的で深い学びを実践するために「朝日タイム」と称して、授業の中で「思考を深める時間」ととっている。

該当学年においては、2年時より数学科や英語科において少人数を対象としたきめ細やかな授業の中で、生徒間での教え合いや聞き合い、学び合いが促進され、机間指導(支援)でのアドバイスや声かけなどもより丁寧なものになった。特に低学力の生徒や個別の支援が必要な生徒への適切な指導につながった。全教科において、小グループでの話し合い活動を授業の中で効果的に組み合わせることで、生徒間の言語活動が促進され、各生徒のコミュニケーション能力を高める結果となった。少人数授業や小グループでの活動を実施することにより、生徒一人あたりの活動量が確実に増え、基礎・基本の徹底や応用力を伸ばすことができた。

### 3 朝日町教育委員会による学校支援とその成果等の状況

#### ○できることを普段どおり続ける

「継続は力なり。」とは、昔からよく聞く言葉です。学びの場である学校では、特色ある取組も重要ですが、かわり映えないけれど、同じことを粘り強くこつこつと続けていくことも、学力の向上には大切なことです。当たり前のことを普段通り当たり前のようにできるということが、学力調査の結果が高くなっている一因ではないかと考えられます。

#### ○細かな分析から授業改善へ

朝日町では、結果を全国の平均値との比較でとらえるのではなく、子どもたちの学力向上の取組にむけて、どのような部分に課題があるのかを丁寧に分析することが大切だと考えています。つまり、学力調査の大きな目的の一つは、調査結果を踏まえての、学校での授業改善につなげることであり、子どもたちにとって、いかに分かりやすい授業をし、子どもたちに、いかに学習内容を身につけさせるかに尽きると思います。

#### ○どのような授業が結果につながっているのか。

教師が、ちょっとした具体物を提供しながら授業を工夫する。「勉強しなさい！」というよりも、「あなたが数学で習っていることは、こうやって社会で役に立ちますよ。」と気づかせることが、生きて働く「知識及び技能」、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」につながっていくと考えられます。このことをベースに朝日町ではICTを効果的に活用できるように工夫を重ね、授業改善に努めていることが良い結果につながっていると考えられます。

### 4 児童生徒の学びの充実を図るための今後の取組

#### ①小学校

- 児童の学習意欲を引き出すために、算数科での習熟度別学習やティームティーチングを有効に活用し、基礎基本を定着させ、発展的な学習を取り入れ、日常生活と関係づけた学習をしていくよう努めていくとともに、分かりやすい授業になるよう、取り組んでいく。
- 自尊感情が低い児童が多く、自分に自信がない傾向がみられるため、自信をもてるような活動を計画していく。児童に任せたり、児童が試行錯誤する過程を褒めたり、励ましたりしていく。
- 学校と家庭で連携をし、家庭学習や読書活動に取り組んでいく。「家庭学習の手引き」を活用し、よりよい自主学習に取り組んでいる児童を紹介する。

#### ②中学校

- 学校としては、学校(学年・学級)だより、学校ホームページ、体育祭や文化祭などの学校行事、授業参観・懇談会、部活動参観などを通して、家庭や地域へ向けての情報発信を積極的に行って

きた。ここ数年は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として一連の行事・活動の中止・延期・規模縮小等を余儀なくされたが、地域連携の取り組みとして、交通安全教室(地域の警察署や自動車学校による)や陶芸教室(地域陶芸教室の方による)、職業体験(地域の会社、企業等)、地域の文化祭へ作品を出展、ブラスバンド部における訪問演奏活動(町民文化祭、サマーフェスタあさひ、老人ホーム慰問等)を積極的に行ってきた。今後も状況を見極めながら、これまで培ってきた学校と家庭、地域との信頼関係の構築を重視しながら、可能な限り地域連携活動に取り組んでいきたい。

- 地域に関する項目では、(29)今住んでいる地域の行事に参加している(全国+2.7)(30)地域や社会をよくするために何をすべきか考える(全国+2.6)となっている。
- 今後も、中学校からの情報発信を積極的に行い、地域唯一の中学校として生徒・保護者に地域活動への参加を一層呼びかけ、地域活性化の取り組みを地域と学校が連携しながら進めていくことが大切であると考えている。その中で、学校の取り組みに対する意見をいただき、保護者や地域の方とともに子どもたちにとって居心地のよい学校づくりを進めていきたい。

## **5 三重県の公表状況**

三重県教育委員会による県全体の概況等に関する公表内容については、県ホームページを参照してください。